

1 道徳における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

(1) 「心のノート」の改訂について

「心のノート」・・・児童生徒が身に付ける道徳の内容を分かりやすく表し、道徳的価値について自ら考えるきっかけとなるものとして作成された教材

① 「心のノート」の基本的な考え方

- ・ 4つの趣旨（基本的な考え）
 - (1) 子どもが道徳性を発展させる窓口
 - (2) 日常生活や全教育活動を通じて活用するもの
 - (3) 教科書や副読本に代わるものではない
 - (4) 学校での多様な教材開発を促すもの
- ・ 3つの特徴（性格）
 - (1) 自学自習ノート・・・子ども一人一人が道徳的価値について興味を持ったとき、自ら学ぶための冊子
 - (2) 生活ノート・・・子どもが自己の生活や体験を振り返り、記録することのできる心の成長記録となる冊子
 - (3) 心の架け橋・・・学校と家庭（及び地域）が心の教育を話題にし、共に子どもの心を育むための冊子

② 「心のノート」の多様な場面での活用を

- ・ 学校や家庭の日常生活で活用する。
- ・ 各教科，総合的な学習の時間，特別活動の時間で活用する。
- ・ 学校・家庭・地域社会の連携の場で活用する。

③ 「心のノート」の活用を広げるために

- ・ 『「心のノート」を生かした道徳教育の展開～心のノート活用事例集～』を参照する。

例) 朝の読書タイムでの活用 (P. 20～21)

各教科（数学科，音楽科，技術科等）での活用 (P. 34～55)

生徒会活動での活用 (P. 90～91) 等

- ・ 学校としての用い方の方針を決めて全教職員で共通理解する。
- ・ 道徳教育計画へ位置付ける。
- ・ 道徳教育推進教師の役割として位置付ける。
- ・ 子どもの思いや子ども一人一人の事情等へ配慮する。
- ・ 一人一人が違う個性的なノートになるよう援助する。
- ・ 校内研修などの資料としても活用する。

④ 現在の状況

- ・ 今年度の「心のノート」は7～8月に各学校に送付予定である。
- ・ 来年度より「心のノート」が改訂され，4月より配布される。
活用の仕方については，現時点では基本的には変わらないと思われる。
来年度以降の新しい改訂版の活用についての詳細は未定である。
- ・ 大まかな内容としては，現在の構成に，読み物資料や名言，格言が加わり，書き込み欄が充実する。
- ・ 今後の大まかな流れの予定

「心のノート」改訂→「心のノートの活用のために」改訂→「活用事例集」改訂

(2) 「心のノート」全面改訂の基本的考え方

- ①授業においてより活用しやすいものとなるよう、学習指導要領に示された内容項目ごとに読み物部分と書き込み部分のセットで構成することを基本とする。
- ・先人等の残した名言，国内外の偉人や著名人，伝統・文化，生命尊重等に関する読み物など児童生徒が道徳的価値について考えるきっかけとなる素材を盛り込む。
 - ・児童生徒が自分の感じたことや考えたことを書き込めるようにする。
- ②児童生徒の発達段階を踏まえつつ，以下の点を重視する。
- ・いじめの未然防止の観点から，悩みや葛藤等の思春期の心の揺れ，心理的な側面も含めた人間関係の理解等に関わる内容を充実する。
 - ・児童生徒の多様性（例えば障害の有無や家庭の状況など）に配慮する。
 - ・「礼」など我が国の伝統・文化に根ざす内容を充実する。
 - ・道徳的実践を促すような具体的な振る舞い方などの「技法」（例えば他者とのコミュニケーションの出発点としての挨拶の仕方など）を身に付けることについて盛り込む。
 - ・「食育」「市民性を育む教育」「法教育」の視点を踏まえた指導に資する内容を充実する。
 - ・「情報モラル」をはじめ，児童生徒を取り巻くリアルな環境の変化を踏まえた内容について充実する。
 - ・「各教科」等での活用も念頭に，探究的，主体的な学びにつながり，職業を含めた将来設計についても具体的に考えるきっかけとなるような内容を盛り込む。
 - ・家庭教育との連携や家庭における活用をより重視した内容を盛り込む。

(3) 道徳教育全体計画別葉の作成について

- ①道徳教育は学校の教育活動全体を通じて行う→学校としての「全体計画別葉」の作成が必要
- ・道徳の時間だけではなく各教科等における道徳教育にかかわる指導内容や時期を整理して示すことが必要である。
 - ・教科担任制の中学校において，道徳教育の内容を把握して取り組むことがポイントである。
- ②実際に活用される計画を作成したい。
- ・1年間かけて，毎時間の授業のメモを記録として取る。
 - ・年度末にまとめる →実際の指導に基づいた計画が作成される →活用できる計画
 - ・参考例 心のノート活用事例集（P. 108～109）「全教師で生きてはたらく諸計画をつくる」

(4) 魅力的な教材の開発，活用について

- ①道徳の時間に用いられる教材の必要条件
- ・人間尊重の精神にかなうもの
 - ・ねらいを達成するのにふさわしいもの
 - ・生徒の興味や関心，発達に応じたもの
 - ・多様な価値観が引き出され深く考えることができるもの
 - ・特定の価値観に偏しない中立的なもの
- ②道徳教育実施状況調査結果「道徳の時間に活用した教材（中学校）」より
- ・自作資料(56.3%) 新聞記事(70.1%) 書籍(67.1%)
 - ・自作教材作成のハードルは高い。道徳的価値が含まれ，考えさせる資料であることが重要。
- ③地域教材の開発
- ・宮城県版「みやぎの先人」（江戸，明治時代の先人中心）が作成されている。
 - ・地域教材の作り方 「中等教育資料(25.3月)」広島県久保中の実践事例を参考に。